

# 私学の働き方改革認証校を目指す 「中高改革」とは?!

学校法人金井学園 福井工業大学福井中学校・高等学校



学校法人 金井学園  
法人本部 経営企画部 経営企画課  
課長 宮本 由佳子 さま

福井工業大学附属福井高等学校  
教頭 藤井 貴広 さま

法人本部  
経営企画部 経営企画課  
課長代理 金井 兼信 さま

- 教員が夢を持ち、教員らしく働くための仕事改革！
- 校務分掌を大幅に削減！ 教育活動に専念できる仕組みを
- 教員を目指す人々に希望となるメッセージを伝えたい！

## まずは校務分掌にメスを

学校法人金井学園 福井工業大学福井中学校・高等学校（以下 中高）の働き方改革の目的は、「教員が夢を持ち、教員らしく働くための仕事改革」だ。教員が意欲的に働ける環境の提供を目指し、その目玉として教員の**校務分掌の大幅削減**に着手した。

宮本課長「大学では教員と事務職員の役割が分担され、教員は教員としての仕事をしているのに、なぜ中高の教員は学校運営に関わる全ての仕事をしているのか？ 改革以前は、教員が校務分掌を担うのは当然で、誰も疑問を持っていませんでした」

藤井教頭（以下 教頭）「教員には時間を有効に使ってほしい。そのため校務分掌をできるだけ減らし、代わりに事務職員の増員を法人にお願いしました。教員が抱えていた山のような仕事の多くを事務職員と分担し、生徒との時間や授業の準備など、教員が本来すべき仕事に専念できるようにしたかったのです」

そこで、2019年度までの**校務分掌組織を解体**。縦割りではなく、教員の担う部分が比較的多い教務や生徒指導は、それぞれ教務主任、生徒指導主任として全体に関わる役割に変更した。一方で、学年団を強化し、学年主任が各学年の教員マネジメントを行う役割を担うように。校務分掌を受け持つ事務職員の多くは、大学事務から異動。大学法人ならではの組織力が中高の校務分掌改革にもいかに発揮されている。



## 大学法人であるメリットを發揮

たとえば、キャリア（就職）であれば、大学の元キャリア担当だった事務職員が企業訪問し、情報を収集し整理したものを、教員が活用して生徒と面談。進学指導は教員が行うが、大学入試の分析や情報の整理などは大学の元入試担当の事務職員が担当し、進学説明会は教員が行う。広報であれば、パンフレットやテレビCM、ホームページ等は事務職員が制作に関わり、教員は確認作業のみを行い、生徒募集のための中学訪問は教員が行う。生徒指導や教育課程などは教員が担当するが、細かな時間割変更、雑務等は事務職員が行うという具合だ。

教頭「スタートしたばかりで、まだ試行錯誤は続いています。教員の校務分掌の削減目標は50%。実際にキャリア（就職）は80%ぐらい減りました」

部活動では、常勤教員60名のうち約20名が重点強化クラブの指導に携わり、土日は遠征試合なども含めて活動する。そのため今年度から、重点強化クラブ担当教員には、平日に1日の休みを指示。勤務超過を防止している。一方で、校務分掌から振り向けられた教育活動についても、変形労働時間制の厳正運用により、勤務時間に対する**教員の意識が向上**した。

教頭「私たちの基本的な考えは、教員の校務分掌を減らして時間をつくり、生徒のためにたくさん時間を使えるようにすることです」

授業であっても部活動であっても、教員には教員らしい仕事をしてほしい。そのために中高の働き方改革は学校改革そのものである、と。新たな課題もわかり、試行錯誤は続くが、この施策は**正しいと確信**している。

金井課長代理「公立学校でいわれる“ブラック”な職場は、私学には当てはまらないようにしたいですね」

変形労働制の導入も校務分掌の大幅削減も、私学であれば、独自の判断でどんどん改善できる。「私学の働き方改革宣言校」の認証を受け、これから教員を目指す人々に希望となるメッセージを伝えたい、と力強く宣言した。

